

SGH講演会・意見交換会④（水産学部）

6月22日（水）に、長崎大学水産学部の阪倉良孝教授をお招きし、「長崎と水と世界の繋がり」をテーマに講演会・意見交換会を行いました。長崎県が海岸線の長さや多様性、島の多さという恵まれた全国有数の水産県であるということ、海の生き物に国境はなく、何気なく食べている魚こそがグローバルだということに気付かせていただきました。孵化したばかりのクロマグロの成育過程が分かる貴重な標本も見せていただきました。意見交換会でも、実験にこだわらず、統計資料から見てくることがたくさんあるなど、研究の方向性についての的確なご助言をいただき、グローバルな課題解決を考える大変良い機会となりました。



SGH講演会・意見交換会⑤（RECNA）

6月23日（木）に、長崎大学核兵器廃絶研究センターの広瀬訓副センター長をお招きし、講演会・意見交換会を実施しました。広瀬先生には「長崎からグローバルな課題を発見するー被爆地ナガサキからの発信ー」というテーマでご講演をいただき、核兵器に関する基礎知識、核廃絶に関する諸問題など、とても内容の深いお話しをしていただきました。「核兵器の非人道性」「人間の可能性を守ること」「長崎に住む私たちに今できること」など、深く考えるととても良い機会となりました。



SGH講演会・意見交換会⑥（原爆後障害医療研究所）

6月23日（木）に、長崎大学原爆後障害医療研究所の永山雄二所長をお招きし、講演会・意見交換会を実施しました。永山先生には「福島原発事故の実際ー長崎・広島原爆、チェルノブイリから学んでー」というテーマでご講演をいただき、原爆被害者における癌の発生率、チェルノブイリ原発事故と福島原発事故との比較、低線量放射能の人体影響など、多岐に渡るお話しをしていただきました。永山先生自ら福島に足を運んで集められたデータなども提示していただき、改めて福島原発事故について客観的に考える良い機会となりました。

